

～特集～ ふるさと兵庫で夢を叶える～兵庫への移住～



【出演者】

牛飼 勇太 tanomo 株式会社 代表取締役
 中川 ミミ 一般社団法人 Be 代表理事
 井戸 敏三 兵庫県知事

「ふるさと兵庫で夢を叶える～兵庫への移住～」をテーマに、移住支援や空き家を活用した地域づくりについて、知事と語り合っていました。
 (令和3年2月9日対談)

自己紹介

中川 私はエチオピアで生まれて、1歳の時に丹波市に家族で移住し、幼少期を過ごしました。アメリカの大学を卒業後、夢だった国際協力の現場で10年ほど働きました。世界中の災害や紛争の跡地、東日本大震災の現地にも入り、住宅支援の活動をしていました。

日本国内で活動したいと思っていた時に、丹波市移住相談窓口で住まいを起点にしたまちづくりや地域活性化を図る「地域おこし協力隊」の募集を聞きました。相談を重ねる中で、地域で頑張っている若い世代の人たちと出会い、この地でならやっていると、2015年に協力隊に着任しました。



中川ミミさん



牛飼勇太さん

牛飼 私は岸和田、堺で育ちました。美容専門学校を卒業後、大阪市内の美容室で働いていましたが、24歳の時に父親が他界したのをきっかけに、生きることについて探求心が湧き、日本一周やアメリカ横断、タイを放浪したりしながら、色々な場所の色々な人の生き方に触れました。

帰国後は自然の中の生き物に触れたいと思い、六甲山の保養所施設を紹介いただき、住むようになりました。愉快的な仲間も集まり、共同生活が始まりました。野生動物と人が共に生きる貴重な体験をしました。

芦屋などでの個性的なシェアハウス事業

知事 牛飼さんはその後、芦屋に移られたんですね。
牛飼 はい。シェアハウスが面白く、事業として取り組みたいと考えるようになりました。山が好きなので、芦屋の山手の方に良い物件を見つけ、シェアハウスと、1階は有機野菜を売る小売店にしました。シェアハウスのメンバーはその有機野菜を食べ放題にして、店で売れ残った物をみんなで食べ、フードロスがない形を作りました。それ以来、兵庫

県でシェアハウスを6軒運営していたんです。

知事 どこで運営していたのですか。

牛飼 神戸市北区鈴蘭台や灘区青谷町、宝塚などです。

知事 どのような方々が利用されていましたか。

牛飼 それぞれ少しずつ違ったコンセプトがあります。例えば灘区では、神戸大学の学生や卒業生が中心でした。その他の物件は20～30代で、男女の比率は同じ位だったと思います。人と交流するのが好きな人たちが集まっていました。

知事 シェアハウスはプライバシーを保てるのですか。

牛飼 はい。それぞれ個室があって、共有のリビングやキッチンがある形です。

知事 自分の生活パターンは作れるんですね。

伝統工芸品の作り手を支援するシェアハウス

中川 私もシェアハウスをしています。伝統工芸品である「丹波布」の織り手さんが、研修のために日本全国から来られるのですが、住む場所が少ない状況でした。丹波布発祥の地にある古民家で、地域の様子を知ってもらい、地域活動をしながら暮らせる場所を提供したいと思い、スタートしました。私のシェアハウスは「ルーム」という名前です。

知事 シェアハウス「ルーム」、すてきな名前ですね。

中川 “織機”という意味をもつ英語の“Loom”を掛けています。現在3名の方が入居されています。

知事 中川さんのシェアハウスも牛飼さんと同じような構造ですか。

中川 そうです。施設ができる個室があります。木造の古民家だったので、母屋を改造しました。都会から移り住まれる方は、隙間がある家を寒いと感じたり、湿気を調節する土壁に慣れなかつたりします。「田舎に来たから仕方がない」とはならないように、ワークショップ形式で仲間を募り、心地よく暮らせる住まいに造り替えました。

知事 シェアハウスに住みたい人は都会の方が多いですか。

中川 丹波市内のシェアハウスは1ターンの方が多いです。古民家を買って移り住んだり、住居兼店舗を構えて事業を

始めたりされています。

加東市へ移住後の暮らし

知事 牛飼さんは芦屋から加東に引っ越しされましたね。

牛飼 はい。六甲山や芦屋の家はコンクリート造りで、築50年を超えると雨漏りなど支障が出てきました。木造で築100年以上の古民家であれば、使い方次第でまだ100年、200年使えます。神戸から1時間圏内でそのような物件を探し、加東市の東条地域にを見つけました。地域で選んだというより、良い物件があって、行ってみたらとても良い地域だったんです。

この地域の隣保の名前である「笠小屋」という地区名がすてきだなと思いました。赤い傘が立っているイメージが湧いたんです。“かさ”にはイタリア語で“家(CASA)”という意味もあります。地域の方々に「播磨 CASAGOYA」という名前で、シェアハウス事業をしたいと事前にお話しをしたところ、快く受け入れてくださいました。



播磨 CASAGOYA

知事 地域の人から見ると、牛飼さんもシェアハウスに住む人も、よそから来た人ですが、違和感や葛藤はなかったですか。

牛飼 あまりなかったです。というのも、数名の40代の方が地域の方との間を取り持ってください、説明する機会を作ってもらいました。近くに新興住宅地や工業団地があるので、外から人が入ってくることに慣れている地域なのかもしれません。

知事 地域の方につないでいただくことが非常に重要だったんですね。

牛飼 すごく大切なことです。有り難かったです。

知事 “CASAGOYA”という名前は分かりましたが、tanomo株式会社の名前の由来は何ですか。

牛飼 “tanomo”は「暮らしを楽しみましょう」という意味です。僕自身のモットーでもあります。

丹波市での移住支援活動

知事 中川さんは地域おこし協力隊の経験から、法人を立ち上げて地域おこしをさらに進められたようですが、一般社団法人 Be の“Be”は何を表しているのでしょうか。

中川 これは be 動詞の“Be”で、「ある、存在する」という意味です。私の好きなガンジーの言葉に「Be the change」という言葉があります。世の中に何か変革を求めるなら、あなた自身がその変化になりなさいという意味です。

私たちは、地域おこし協力隊として地域に移り住んで活動します。つまりその地域の住民の一人になります。地域を担う一員として、どういうことをすべきかを考えていきたいという思いを込めました。

知事 どのような活動をされていますか。

中川 協力隊として赴任した時は、空き家バンクの立ち上げが主なミッションでした。その後、少しずつ業務内容を広げ、空き家、仕事、暮らしの情報などを集約して、移住希望者に情報提供をしています。移住を決められた時には、地域の方との橋渡し役をしたり、移住後は順調に暮らすために交流会をしたり、先輩移住者を紹介したり、一元的に行っています。協力隊の任期が終わった後も、その役割がまだ必要とされていたので、当時の仲間と法人を立ち上げ、今も継続しています。

知事 仲間の方々はどんな仕事をされていますか。

中川 移住相談員として相談対応をする人もいれば、古民家の建築設計をする人もいます。私は YouTube チャンネルで丹波市の魅力を発信していますが、その撮影クルーもいます。様々な人たちが、丹波市からの委託事業「たんば“移充”テラス」という業務を回しています。



空き家バンク所有者へのヒアリング

加東市で移住支援活動をスタート

知事 牛飼さんは加東市でどのような活動をされていますか。

牛飼 加東市から移住・定住サポーターという役割をいただいています。移住希望者の窓口として問合せに答えたり、地域を案内しています。最近では、オンラインイベントでも加東市の魅力を発信しています。



講演をする牛飼さん

北播磨県民局主催の移住イベントにも出演しました。北播磨には魅力的な地域がたくさんあることを発信し、興味を持たれた方に各市町でアピールする流れを作りたいと思っています。面白いプレイヤーさんと連絡を取って、一緒にイベントに出演するなど輪を広げているところです。

知事 移住について、昨年1年間でどれくらい効果がありましたか。

牛飼 加東市の移住・定住サポーターは、昨年4月からスタートしましたが、コロナ禍で移住促進はしばらく休止していました。昨年11月にオンラインイベントを2回実施し、関心を持たれた参加者と継続して連絡を取っています。

知事 コロナ禍で「密も良いことばかりではない」と皆さん気づかれて、東京にある兵庫県の移住相談窓口では相談件数が増えています。

移住者と受け入れる地域への支援

知事 中川さんの地域への支援事業ですが、難しかった経験はありませんか。

中川 地域で長くお住まいの方と、私たちのように外から

今後の抱負

牛飼 一つ目は、この古民家の隣にある 8,000 m²の里山の敷地に、今年は手を入れたいと思っています。カブトムシもいる自然豊かな雑木林を、里山アスレチックや公園のように、いつでも子どもが遊びに来て良い場所にしたいと思っています。僕が大事にしている「自然と共に生きる」ことを体験してもらえたら嬉しいなと思っています。

二つ目に、都会と地方、それぞれの良さを掛け合わせていくことができたらいいなと思っています。私はほぼオンラインで仕事をしていて、大阪市など他地域の事業者支援も家にいながら行っています。都市部と地方との橋渡しができる、双方にとってすごく良いのではないかと思います。

知事 オンラインでほぼ全ての仕事をこなすというのは、最先端ですね。

牛飼 先ほどまで子どもとお風呂に入っていたのに、10 分後にはミーティングをしているということがよくあります。楽しくやっています。

知事 中川さんはいかがですか。

中川 コロナ禍でなければ、各地から人を集めて、農業体験や地域を見ていただき、古民家を改修していくツアーを始める予定でした。人と人が直接集まったり、都市部との間を行き来することが難しくなったので、オンラインに切り替えるなど工夫をして進めています。次回の移住相談イベントでは、海外からの参加者も予定しています。私たちが丹波にいるからこそ見せられる世界を、移住希望者に提案していきたいと思っています。

また、移住者を迎え入れる地域の人たちへの支援を進めていきたいです。地域住民自らが、町にどれぐらいの空き家があるのか、どの空き家を移住者に提供するのかなどの情報を収集し、自分たちの町をどうしていくのか考える。そういった動きへの働きかけをしていきたいと思っています。

知事 ありがとうございます。お二人とも、地域間の交流を促し、地域おこしの先達として活躍されています。今後もぜひ、兵庫県への移住・定住者を増加させる一翼を担っていただきますよう心からお願いするとともに、ご活躍をお祈りします。コロナに負けずに、頑張ってください。



の視点で物を見る人との間に、地域課題に対する認識の差がありました。人口減少や高齢化で困っているという声を聞きますが、何がどう困っているのか、どれぐらいのスピードで対応しないといけないのかなど、自治会や自治協議会の方々と細かく話をし、その差を縮めていきました。移住者の受け入れ、空き家を有効活用する計画、地域の計画策定をお手伝いしながら、移住者と地域住民が心地よく暮らせるまちづくりを一緒に考えています。

知事 仕事が見つからず、生活基盤が不安定だと移り住めない気がしますが、移住者はうまく仕事を見つけておられますか。

中川 他の地域も同じだと思いますが、コロナ禍で就職が難しい状況です。私たちの窓口を介して移住される方々には、地域内で就職先を見つけたり、起業したり、自分だけでなく家族を養っていくための支援をしています。その目途が立つまで対応しますし、少しでも不安があれば「もう少し待ってください」とストップをかけます。



移住相談の様子

知事 自立できそうになったら、いらっしゃいということですね。牛飼さんはいかがですか。

牛飼 私も事業者の支援をしており、起業の支援ができます。仕事を選ばなければ、求人の方がやや多い地域なので、地域が気に入れば、まずは就きやすい仕事に就いて、それからやりたいことを育てていくという形でも良いと思います。

知事 ところで町内会の活動の中には、清掃などその地域に暮らす上での義務がありますよね。それが移住者には慣れなくて、苦痛に感じるという声を聞きますが、どうなのでしょう。

中川 私毎月1回は自治会での活動をしています。移住希望者には、都会と田舎の違いについて説明しています。都会の場合は地域清掃などを行政が担っていますが、丹波市のような地域では、これらを住民が担っています。そして、それらが重要であることについても理解を促しています。掃除や草刈りを一緒にすることがきっかけで、この仕事を頼みたいとか、この人を紹介してあげたいといった、人とのつながりや触れ合いが生まれるんです。これらも田舎暮らしの楽しみ、醍醐味ですので、ご希望するライフスタイルに合っているのなら、丹波市は良いところだとお伝えしています。

牛飼 私もコミュニケーションの一つだと思っています。お茶を飲みながら色々な話をするなど、楽しく貴重な時間です。子どもを連れて行くと、皆さんすごく歓迎して下さり、一緒に歩いているだけで喜んでくださるのです。

【発行】こころ豊かな美しい兵庫推進会議
(兵庫県県民生活課内)
神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL:078-362-3136

ココロン HP 内にて、より詳細な対談の様子を動画にて配信中国際ネットワーク 知事対談で検索、もしくは左のQRコードをスキャンしてください



阪神南

芦屋市在住の高校生が、高校の垣根を越えて活動中！
あしや部～芦屋市在住高校生市民活動プロジェクト～ 代表 田畑 北斗(芦屋市)

あしや市民活動センター(リードあしや)
電話 0797-26-6452

芦屋在住の2人の高校教師が、芦屋市在住の高校生と、芦屋の今とこれからのについて語り、活動する場を作りたい。そんな思いで2019年7月に発足しました。現在、公立・私立、全日制・通信制合わせて10校14名の高校生が活動しています。まちの魅力調査として、飲食店へのインタビューやロックガーデンでの登山、精道小学校での防災教育の聞き取りなどを行いました。JR芦屋駅南再開発や第5次総合計画について市職員と意見交換をしたり、伊藤市長と芦屋の今と未来について話し合ったりもしてきました。2月には、フリーペーパーを発行しました。市外に通う高校生が多い芦屋市だからこそ、市内在住の高校生同士のつながりや高校生とまちのつながりを大切に活動をしています。詳しい活動は、「あしや部」で検索して、ホームページやSNSをご覧ください。



芦屋の飲食店の魅力を調査！

東播磨

古民家の活用で住民交流を図り地域を元気に
高砂地区まちづくり協議会 副会長 鎌谷 正士(高砂市)

高砂地区まちづくり協議会 鎌谷
電話 090-3946-3187

高砂地区は、平成18年9月に、県により歴史的景観形成地区に指定されて以来、景観の保全活用を進めてきました。その中で、20数年間空き家となっていた花井家が、県民交流広場の拠点施設として活用することが可能となり、運営主体として平成22年に高砂地区まちづくり協議会が立ちあがりました。春に落語会、冬には「高砂来て民家まつり」を中心に、住民参加のもと、歴史座談会として「歴史サロン」を実施しています。また、地区の秋祭り、万灯祭などのイベントへの協力や参加など積極的に活動しています。地域の賑わいも創出しながら、今後とも、古民家でのイベント等を通じて、周辺住民の方々の景観に対する意識の向上を図っていきたくと考えています。



登録文化財松宗蔵でのからくり人形の実演

中播磨

空き家を活かして島と人をつなぐ
家島空き家対策協議会 会長 庄田 定弘(姫路市)

家島空き家対策協議会 事務局長 中西
電話 079-240-9138

家島は大阪からでもアクセスが良く、瀬戸内の海の幸だけでなく、良質な石材にも恵まれ、採石業・海運業で栄えてきた歴史ある島です。しかし現在は人口減少に悩まされており、空き家も増えています。私たちは寂しくなる島の現状を憂い、令和元年7月から島内のボランティア団体などとともに空き家情報の整理を始めました。空き家の所有者と交渉して移住希望者向けのお試し住宅を整備したり、移住相談のPRなど情報発信に力を入れたところ、コロナ禍で新しいライフスタイルを考え始めた方も含めた問い合わせが増え、昨年は5組の移住が成立しました。今後は新しい島民への支援をはじめ、気軽に移住体験ができる施設を計画中で、知るほどに深まる家島の魅力をどんどんアピールしていきます。



空き家マップの製作の様子

但馬

子どもの笑い声が響く地域「宿南」
宿南地区自治協議会 会長 木下 計介(養父市)

宿南地区自治協議会
電話 079-662-3400

宿南地区には、全校児童25人の宿南小学校があります。地域の宝である子どもが安全で健やかに育つ環境づくりをおこなう中、平成5年に小学校と地域が連携して「児童減対策委員会」を立ち上げ、児童が増える取組(住宅地の整備やU・Iターンする若者家族へ祝い金を贈るなど)をおこない、子育て世代を応援しています。平成30年度には、県の「戦略的移住推進モデル事業」の採択を受け、地域の魅力を再認識できる機会を増やし、都市部との交流や地域内の活発な意見交換など移住希望者へのPRだけでなく、郷土愛の醸成もはかっています。移住推進をすすめる中で、新しく仲間も増えました。これからも地域発展のために活動を続けていきます。



宿南小学校の登校時(池田草庵像に挨拶)

淡路

「あわじ暮らし総合相談窓口」について
NPO法人あわじFANクラブ 専務理事 赤松 清子(洲本市)

あわじ暮らし総合相談窓口
電話 090-1247-1589

兵庫県淡路県民局からの委託事業として「あわじ暮らし総合相談窓口」を開設し、一人ひとりが希望するライフスタイルに応じた田舎暮らしの実現をサポートしています。インターネットを活用しホームページやブログ、フェイスブックでの地域情報発信や先輩移住者の紹介などを積極的に行っています。特に移住した人がライターとなり週替わりで日々の暮らしを投稿する移住者ブログは、移住希望者から共感を得ています。また、昨年よりオンライン相談も行っています。「淡路島ってどんなところ?」「田舎暮らしについてイメージができない。」など、さまざまなご相談に複数の専門スタッフが丁寧にお答えし、好評を得ています。



大阪で開催された「ふるさと回帰フェア」